

情報公開文書

聖隷三方原病院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた検体やカルテ記録を利用することによって行います。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究の計画や方法について詳しくお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ記録を利用することをご了解いただけない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

[研究課題名] 地域在住高齢者における骨粗鬆症性椎体骨折の受診に至るまでの日数とその関連要因の探索

[研究機関名] 聖隷三方原病院

[研究機関の長] 山本貴道

[研究責任者] 加藤貴子 (聖隷クリストファー大学 看護学部)

[研究の概要] 近年、高齢化に伴い、骨粗鬆症を背景とした背骨の骨折(骨粗鬆症性椎体骨折)は増加しています。背骨の骨折(骨粗鬆症性椎体骨折)は、ただ痛いだけではなく、そのまま固まらなかつたり(偽関節)、次の骨折を誘発する要因となり、高齢者の健康に影響を及ぼしています。この骨折の悪化を防ぐためには、できるだけ早く受診し、適切な治療を始めることが大切であると考えます。

そこで、背骨の骨折(骨粗鬆症性椎体骨折)を受傷された方のデータを利用して頂きたいと存じます。これらより、受診が遅れる原因などを特定し、早くに治療がうけられ、骨折予防や早期発見を高める活動に役立て、いつまでも元気に自立して生活できる社会を目指したいと考えております。

この研究による新たな負担は一切ありません。また、プライバシー保護については最善を尽くします。

■ 目的・方法

研究期間：2026年3月19日～2028年3月31日

目的：骨粗鬆症性椎体骨折の受傷から受診に至るまでの日数とその関連要因を明らかにすることです。

方法：カルテからの情報収集をもとに実施する後方視的な観察研究です。

■ 対象となる患者さん

2023年3月～2026年2月に当院で骨粗鬆症性椎体骨折治療を受けた65歳以上の方

■ 研究に用いる試料・情報の種類

試料：なし

情報：以下の情報を診療録から取得します。

背骨の骨折(または疼痛)の発症日、初診日、年齢、性別、介護度、骨密度、骨折状況(受傷機転の内容、初診時の痛みの有無と程度、骨折部位)、日常生活動作、認知機能のスクリーニング検査、既往歴(既往骨折、その他の疾患)、慢性腰痛の有無、骨粗鬆症性の治療歴(通院の有無)、世帯構造、日常的なサポートの有無、介護サービス利用状況、

転帰先等

なお、本研究は、研究責任者（聖隷クリストファー大学 加藤貴子）が実施する研究について聖隷三方原病院病院長に許可を得て実施し、研究責任者が研究対象カルテを閲覧することについても許可を得ています。カルテから得られた情報は、個人が特定されないように配慮いたします。

■ 研究組織

研究責任者：聖隷クリストファー大学 看護学部 加藤貴子
医療機関（研究協力施設）：聖隷三方原病院

[問い合わせ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先]

研究責任者名：加藤貴子

研究責任者所属：聖隷クリストファー大学 看護学部

電話 053-439-1414（研究室直通）FAX：053-439-1406